

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2022 年 6 月 13 日
報告者	谷川 知
助成団体名 (所属団体名)	一般社団法人 異才ネットワーク
団体住所	〒 520-0807 滋賀 都道府県 大津市松本 2-2-16-2
団体電話番号	050 — 5374 — 0311
代表者 (助成対象者)	谷川 知
助成対象事業	学校不適應・不登校の子のための居場所作り
事業（助成）期間	2019 年 6 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 31 日
事業費総額	2893466 円
助成金総額	1000000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

2019.9より大津百町館にて週2回水・金 10:00~13:00まで開催
のべ参加人数 1,210人（子ども581人、スタッフ他629人）

【事業の目的】

教育や福祉の有資格者や不登校の親がつくるオルタナティブスクールで、子どもの特性やその他の環境要因からくる子どもの不登校による困り感を抱える人の安心安全の居場所をつくる。また、子どもの状態に合わせて得意なことを伸ばす教育を行う。子どもが在籍する学校と連携し、子どもの育ちと学びをサポートする。

【対象者】

不登校状態の小中高校生

【活動内容】

- ・ボードゲーム、カードゲームなど
- ・調理実習
- ・EQワーク
- ・興味のあることの探求学習、パワーポイントによる発表
- ・絵を描くこと等、得意なことを周りのフィードバックをうけながら実施する
- ・遠足
- ・カフェ事業（月2回）

3、事業成果

2019年9月にスタートし、順調に推移していたが2020年4月からの大津市立学校の休校の影響から通っていた児童の中にはコロナ感染症からの不安で緊急事態宣言解除の後も外出ができにくくなった者もいた。オンラインスクールも開催したが、自閉傾向のある児童生徒には不向きなようで、つながりを持ち続けることの難しさを痛感する期間となった。このような家から出られない児童生徒には、アウトリーチとして家庭訪問型の支援を行うようにしていった。

緊急事態宣言解除後、感染症対策を徹底して活動を6月から再開した。それぞれの性格、特性、希望に合わせて少人数でお話や勉強、遊びなどに取り組んだ。また、町家のある商店街の地域の方の力をお借りして、刃物研ぎ体験をしたり、昆虫の専門家に来ていただき自然観察講座を行ったりした。好きなものを追求していくことは、子どもの知的好奇心を伸ばし、学ぶ意欲を湧き立たせると実感している。

当スクールに通う子供達の中には、小学校や中学校卒業を控えた者もあり、進路相談にもなるようにしている。特に、在籍する中学校の担任の先生とは、月に1回程度電話で様子や出席状況のやりとりをするようにしており、高校進学に向けて連携していく必要性を互いに共有できたように感じる。特性もあり、長らく不登校状態だった児童生徒が進路を前向きに考えられるには時間がかかるが、やはり丁寧に対話していき、本人の希望を引きだしていくことが肝要である。新型コロナウイルス感染の影響もあってか、生徒数が伸びない時期もあったが、秋口以降、着実に問い合わせや見学が増え、不登校児童生徒の日中の居場所としての役割が対外的にも認識された一年となった。

当スクールの「子どもの好きや得意をサポートする」というコンセプトと、現在文部科学省で実施されている「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」や「ギフテッド」に関する社会的な認知度のアップとあいまってNHKの番組で取り上げられこともあった。不登校と才能がイコールではなく、取り上げ方に難しい面もあったが、不登校支援のひとつの面として、子どものもつ力を学校以外の居場所で最大限にサポートし、学校の学習にはそぐわなくても、ありのままの良いという私たちの想いが少しずつ広がっていくことを感じた。

活動としては、不登校の子どもたちが運営する自家焙煎のお店「カフェアンビシャス」を市民活動センターのご協力で、浜大津明日都にて毎月1・3金曜の11:30~13:00に開店することになり、子どもたちがリアルなお店屋さんを運営することで、楽しみながら社会と触れ合っている。

ほぼ、ひきこもり状態であった子どもが、お店さんはやってみたいと参加するようになり、珈琲のドリップやお客さんから注文をうけて、金銭のやり取りをするなど、ホンモノの体験をすることで、家庭から外に出て、大人やトライアンプの子どもたちと交流をはじめることができたなど、効果をあげている。

通常の活動の中でも、トライアンプに参加することで、学校ではひとりぼっちであったという子どもが学年を越えた子どもとの交流の中で精神的に安定し、「楽しい」という時間をもてることは、健全な成長のためにも非常に大切なことであると思う。

学校でみせることのない子どもの側面がトライアンプではみられ、学校連携の中で子どもの様子を話すと驚かれる場面も多くあり、学校以外の居場所の必要性がさらに認識されていくように、今後も活動を充実させていきたい。

4、今後の課題など

【活動場所について】

生徒数が増え、手狭になったこと、かつ聴覚に過敏で大人数を好まない特性の子どもが比較的多いため、より広い場所に移転したい。

また、現在、トライアンフ生が運営しているカフェ事業について、大津市民活動センター前を借りて、月に2回ブース出店しているが、さらに拡大し、子どもたちの将来の自立に役立てるようにしていきたい。

【スタッフについて】

不登校児童生徒を抱える親や子どもが発達上の特性をもつ親が中心となってスタッフとして運営しているため、不登校の子どもへの理解はある程度容易であるが、そもそも自分の子どものことで多忙になる傾向があり、安定したスタッフの配置が難しい時期が生じる。今後は大学生ボランティアを募り、運営に協力してもらいたい。

【月謝の減免】

新型コロナにより各家庭の経済状態が悪化しているケースが多く、月謝の支払いが困難な家庭がある。当会としてはクラウドファンディングなども実施したが、なかなか難しい。

自治体によっては、フリースクール費用の減免をおこなうところもあり、会として行政との連携を密にし、市内においても減免の措置がとられるように動いていきたい。

【合理的配慮】

学習障害と不登校については密接にからんでおり、トライアンフに参加する子どもの中にも、知的には問題ないが、読み書きに苦手さをもつ子どもがいる。本来であれば、学校でICTを利用しながら、合理的配慮のもと学習をすすめるべきであるが、なかなか理解がともなわず、不登校や行き渋りにつながっている。また、入試においても当然なされるはずの合理的配慮を獲得するために、保護者が奔走しなければならない状態が依然として続いている。行政との連携の中で、学習障害をもつ子どもたちへの合理的配慮をすすめていくよう具申していきたい。